

2月4日のウクライナ情報

安齋育郎

●「ネオナチズムが複数国で内的脅威に」=国連事務総長が懸念(2023年1月28日)

「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー(国際ホロコースト記念日)」の 27 日、国連のアントニオ・グテレス事務総長は、ネオナチズムが複数の国で勢力を拡大しており、各国の内的脅威となっていると懸念を表明した。

グテレス事務総長は次のように述べている。

「ネオナチズムや白人至上主義者の運動は日に日に危険度を増している。事実上、現在こうした運動は複数の国の内部で治安上の最も大きい脅威となっている。これはほかのいかなる脅威よりも急激に拡大している」

グテレス事務総長はいたるところでユダヤ排斥主義がはびこっていると指摘する。「激しさは増している。過去一年間だけでも、マンハッタン(米ニューヨーク)の繁華街で正統派ユダヤ人が襲撃される事件があり、メルボルン(豪州)ではユダヤ人学生が罵倒される騒動もあった。ロサンゼルス(米)では橋に憎悪の旗が掲げられ、ベルリンのホロコースト記念館には鍵十字が描かれた」

一方で同日、イスラエルのエルサレムではユダヤ教の礼拝所シナゴグで銃撃テロがあり、多数の死傷者が出た。現地警察によると、容疑者の男は逃亡を試み、警察に向かって発砲した後、射殺された。

事件を受け、グテレス事務総長は報道官を通して「テロを断固として非難する」と声明を発表した。

※注:国際ホロコースト記念日

1945年1月27日、旧ソ連軍によってアウシュヴィッツ=ビルケナウ強制収容所が解放された。ナチス・ドイツの行った絶滅政策により、約600万のユダヤ人が殺害されたとされる。このことから国連総会は2005年、1月27日を「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー(国際ホロコースト記念日)」と定めた。



●【解説】なぜロシア人はレオパルト戦車を恐れないのか、ロシアの戦車の特徴とは何か?(2023年1月28日)

1月25日、西側諸国はウクライナに戦車を供与する用意があると発表した。ドイツ政府は、自国の軍が保有する戦車「レオパルト 2」14 両をウクライナに提供することを確認した他、今後、他国が保有する同戦車の再輸出に関する許可を出すことを明らかにした。欧米は新たな軍備の供与でウクライナを戦場で優位に立たせようとしているが、ロシアにはレオパルトに似た「T-90MS」戦車や新型戦車「T-14 アルマータ」がある。スプートニクは、これらの戦闘車両の技術面での特徴や、長所と短所についてお伝えする。

ギリシャは現在、ドイツ製戦車「レオパルト 1/A5」約 500 両と 300 両を超える「レオパルト 2」を保有しており、レオパルト保有数は欧州で最多。ギリシャのイオアニス・バルツォイス元中將が、スプート

ニクにこのように語った。

バルツォイス氏によると、「レオパルト 2」は確かに英国製の戦車「チャレンジャー」やフランス製の戦車「ルクレール」より優れているようだ。「レオパルト 2」の長所は、頑丈な装甲と特殊な空気清浄フィルター装備している点。そのため、化学戦や核戦でも運用できるという。

しかし、レオパルトには欠点がある。ウクライナに送られることになれば、それは重大な意味を持つものになる。

同氏は、「まず、『乗組員』の練度が高い状態でなくてはならない。戦車を操縦する人物は、その戦車の特徴をすべて熟知していなければならない。ウクライナ人はしっかり訓練を受けなければならない上、戦車を整備する技術的な設備も必要だ。ウクライナ人が操縦できるようになるには 3~4 ヶ月かかると思う。というわけで、(運用できるようになるのは)5 月だ。訓練しなければ、『戦車』に対応できない」と強調した。

さらに、バルツォイス氏は、「このような大きな戦線に 200 両や 300 両の戦車があっても、ゲームのルールは変わらない」と指摘している。

「ロシアはレオパルトに似た戦車『T-90MS』を保有しており、数千とは言わないまでも数百の『キャタピラ』を送り込む能力を持っている。私は、レオパルトは(ウクライナに)到着できないと思っている」

同氏は、世界最高の戦車はロシアの新型戦車「T-14 アルマータ」と述べている。

「T-90 と、全ての戦車の中でも最新型の戦車『T-14 アルマータ』はレオパルト 2 より優れている。ロシア製の戦車は 3 人乗りだが、レオパルトは 4 人乗りだ。『アルマータ』は世界一なのだ。戦車のトップ 3 はアルマータ、イスラエルのメルカバ、レオパルト」

最後にバルツォイス氏は、米国製のエイブラムス戦車は「重くて複雑」と指摘した上で、「エイブラムスはウクライナの草原で立ち往生するだろうし、ガスタービンを使用するため、特殊な航空燃料の大量供給を必要とするという欠点もある。この燃料は、ウクライナ人が簡単に手に入れることはできないし、消費量は非常に多い」と語った。



●ドイツは戦車供与で完全に主権を失った = ザハロフ報道官(2023年1月28日)

ロシア外務省のマリア・ザハロフ報道官は 27 日、オラフ・ショルツ独首相がウクライナへの主力戦車「レオパルト 2」の供与を決定したことは、ドイツが完全に主権を失ったことを意味すると指摘した。ザハロフ報道官は次のように述べている。

「戦車レオパルト供与の決定の日は歴史的な日となった。なぜならこの日は、ドイツには主権がない

と我々が以前から言ってきたことを、最終的に決定づけ、証明する日になったからだ」

ザハロフ報道官は、シヨルツ首相が自主独立のドイツの外交政策をいつも拒否してきたと指摘。また、第二次世界大戦後の歴代独首相が数十年にわたり積み上げてきたものを否定したとも述べ、シヨルツ首相を批判した。

ドイツ政府は 25 日、14 両の独製主力戦車「レオパルト 2」をウクライナへ供与することを決定したと発表した。また、他国が「レオパルト 2」をウクライナへ供与することも承認した。米国も同日、主力戦車「エイブラムス」31 両のウクライナへの供与を決めている。



●西側の「ロシア軍は弾薬不足」報道は嘘 ロステックが否定(2023年)

特殊軍事作戦に従事するロシア軍が弾薬不足に喘いでいるというウクライナ政府の発表や西側の複数のマスコミ報道について、露国営企業「ロスステック」のセルゲイ・チェメゾフ代表取締役はスポーツニクからの取材に答え、発表や報道は事実と食い違っており、ロシアの国防産業は同作戦の開始当初から今までに数倍もの増産に成功していると述べた。

2022 年、ロスステックは重大な責任を担った。国防製品の受注を確実に履行するだけでなく、特殊軍事作戦を成功させるために、ロシア軍が最も必要とする武器、弾薬を増産は必須だった。ロスステックはこの課題を見事に達成した。チェメゾフ代表取締役は「ウクライナが『もうすぐ底をつく』』と言っていた最新の武器と弾薬の両方をロシア軍はすでに受け取っていることを明らかにした。

チェメゾフ代表取締役は、「敵はロシアがミサイルや砲弾不足に直面していると言うが、それは全くナンセンスだ。我々は国防省の命令により弾薬の生産を数倍、種類によっては数桁多く増産している」と語っている。



●原発に軍事機器は隠されているか？(2023年1月24日)

1 月 24 日、IAEA グロッシは、同機関の査察官がウクライナの原発で軍事機器を発見していないことを明らかにした。

ザハロフ報道官は、「IAEA 事務局の指導者は、ロシア対外情報庁の情報を慎重に検討し、査察官の性急な報告に依存しないことが必要だと考える」と強調した。



●EU、ロシアと南アの関係に苛立ち(2023年1月28日)

南アフリカを訪問している EU ボレルは、モスクワのウクライナに対する戦争の中で、南アとロシアとの密接な関係に対して苛立ちを表明した。

大陸の大国である南アフリカは、ウクライナへの侵攻を非難することを拒否し、今月、2 月にロシアと中国との合同海上演習を開催すると発表した。



●ヘルボック独外相提案への風あたり(2023年1月28日)

ドイツのベルボック外相はロシアの指導者に侵略の罪の責任を負わせる特別法廷を望んでいる。しかしその提案には強い逆風が吹いている。EU 外相会合では何人かの同僚が明確に反対。それはストックホルムでの司法大臣会合でも続いた。提案を受け入れると公言したのはフランスだけであった。



●戦車供与のポーランドの思惑(2023年1月28日)

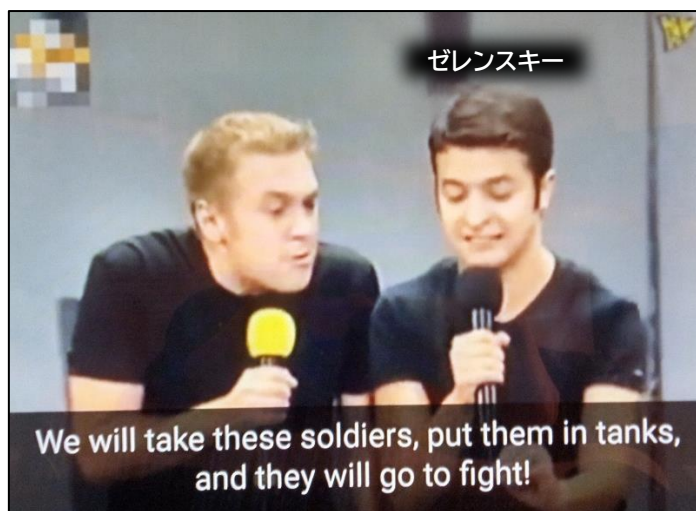
ポーランドは、旧式になったトファルディ戦車をキエフ政権に引き渡し、自国の軍備をアメリカのエイブラムス戦車に置き換えるために「リサイクル」していると、インターネットポータル「祖国の兵器庫」の編集長は述べた。



●コメディアン時代のゼレンスキー(投稿:2023年1月28日)

「ウクライナは戦車が必要。兵士も必要。私達は兵士を戦車に詰め込んで戦いに行かせる。兵士たくさん詰め込む」 ※安齋注:この台本を実践しようとしているのかね。

<https://twitter.com/i/status/1618749735745236993>



●サハリン2運営会社、LNG 生産量増大(2023年1月28日)

サハリン2 運営会社が LNG 生産量が昨年 10%も急増(収益倍増とロイター)

この増加は、アジアの顧客との長期契約とエネルギー価格上昇に起因するもの。

この契約はガспロムや三菱や三井を含むサハリン 2 の株主に最大で 45 億ドルの収入をもたらす可能性があるという。

ロシアの証券会社 Otkritie のチーフアナリストはロイターに、生産量が 2022 年と同じであれば、この企業は 2023 年にさらに 74 億 5000 万ドルを生み出し、スポット市場での販売量は 490 万 t を維持する見込みだと述べた。



●アメリカ、2年以内に中国と戦争？(2023年1月28日)

1月28日 米空軍将軍マイク・ミニハンが部下に、米国は2年以内に中国と戦争状態になることを示唆するメモ=[間違いであってほしい。私の直感では、我々は2025年に戦うことになる]を送ったと、NBC テレビが文書を引用して報じた。



空軍の4つ星将軍が1月27日に、自分が指揮する将校たちに、アメリカが2年以内に中国と戦争になると予測し、目標に向かって”弾丸”を発射して準備するように、そして”頭を狙え”と指示するメモを送った。

27日に送られ、NBC ニュースが入手したメモの中で、航空機動司令部のトップであるマイク・ミニハン将軍は、「私が間違っていることを望むが、私の直感では、2025年に戦うことになると思う」と言ったという。

航空機動司令部 5万人近い軍人と500機近い航空機を持ち、輸送と給油を担当している。

ミニハン氏はメモで、2024年に台湾と米国の両方で大統領選挙があるため、米国は「気が散り」、中国の習近平国家主席が台湾で動く機会になると述べている。

●ビル・ゲイツの「ウクライナ腐食国家論」追い打ち(2023年1月28日)

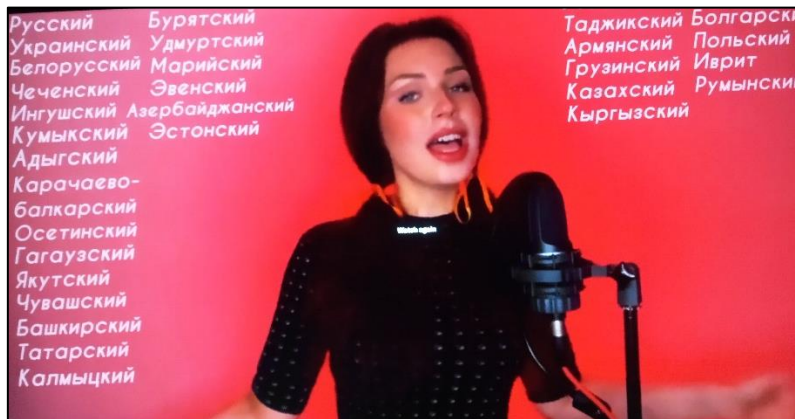
ロシアの特別軍事作戦が始まる前、「ウクライナ政府は世界で最悪の政府の一つだった」

そして、作戦開始後の今日、ウクライナ政府は人類の歴史上最悪の汚職腐敗政府となった。



●カチューシャ、ロシア国内の40言語で(2023年1月28日)

<https://twitter.com/i/status/1618990244510208003>



●選挙のビフォア・アンド・アフター(2023年1月28日)

ゼレンスキー選挙演説:「ウクライナとロシアは一つの国です。私たちはひとつの人間であり、お互いを愛しています！」

このゼレンスキーは 80%で選挙に勝った。



※安齋注:ベトナム戦争への兵役を拒否したムハメド・アリのTシャツを着てますね。

●ブラジルはウクライナ行きの戦車の砲弾の提供を拒否(2023年1月28日)

Folha サンパウロ紙:ブラジルはウク行き戦車の砲弾の提供を拒否

【記事より】ドイツがウクライナに送るレオパルト戦車用の砲弾を1バッチ当たり500万ドルで提供しようブラジルに求めたが拒否。「ロシア挑発に何の価値もない」(ルラ大統領)



●ドイツ人の本当の気持ち(2023年1月28日)

川口マーン恵美「ドイツ人は自分たちの税金で悲惨な戦争が引き延ばされ、多くの命が失われ、孤児が増え、さらに自分たちまでが戦争に引き摺り込まれることを本当に望んでいるのだろうか。私の答えは否だ。そんなことを望んでいる国民は、ほとんどいない」(現代ビジネス)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4289d6b3114a64a6199fd280c9dcac713b05daeb?page=3>



●街頭に繰り出す欧州人たち(2023年1月26日)

ヨーロッパ諸国の住民は、単純な真実を認識し続けています。ロシアに対する NATO の戦争は、一般の人々を巻き込みに導きます。

ウクライナを支援するためにお金を失い続けることを望まない一般の人々は、政府が紛争の後援をやめ、国内の問題に対処することを要求して街頭に出ます。

<https://twitter.com/i/status/1618454714378747904>



●ちょっと憂鬱そうなゼレンスキー(2023年1月27日)

<https://twitter.com/i/status/1618637091763781632>



●ウクライナでの無理やり兵役動員(2023年1月27日)

キエフ当局が管理する地域の住民は、ソーシャルメディアでビデオを共有し、兵役の責任がある人々の厳しい拘留を示しています。召喚に応じるために、警察官や軍入隊事務所の従業員は、男性を家の近く、通勤途中、または路上で捕まえます。

彼らは若い人だけでなく、定年前の男性も止めます。

<https://twitter.com/i/status/1618680882327617536>



●ラブロフ外相のアフリカ諸国歴訪(2023年1月28日)

ラブロフ外相は今週、南アフリカ、スワジランド、アンゴラとアフリカ諸国歴訪を行い、最後の訪問地エリトリアで記者会見を行った。

アフリカには米国、英国他、欧州からの代表団が定期的に訪れており、粘り強さとしては最高の手本とすべきほどの力を発揮して、アフリカ諸国にロシアとは協力せず、共通の規律からはみ出さないよう要求している。

この規律のもとに西側は、概して植民地的隷属の、ただし、すでに新しい形の隷属の復元とはどういうのものを理解している。

「集団的な西側諸国、米国、米国の完全な支配下にある NATO、欧州連合はなんとかこのプロセスを逆行させようとしているが、それは無駄な努力だ。彼らが期待できるのはせいぜい歴史の客観的な流れに何らかのブレーキをかけることくらいだ」

ラブロフ外相はまた、「西側が行うハイブリッド戦争はウクライナで開始した戦争も含め、経済力、金融の影響力、政治影響力の新たな中心地が発展する過程を止めることはできない」と指摘している。

「中国やインドといった国々は多くの点ですでに米国を追い越している。トルコ、エジプト、ペルシャ湾岸諸国、ブラジル、その他の中南米諸国は、影響力のある独立した中心地として発展しつつある。これらすべてが将来の多極化世界の中心だ」

西側メディアが露外相のアフリカ歴訪についての報道を歪曲し、西側の利益となる情報だけを報じたのはつまり「欧米のメディアが描こうとしている絵を再生」しようとする行為だと述べた。

「数日前、ユーロニュースがロシアの南ア訪問をどうコメントしていたかは、インターネットを見たらわかる。『ラブロフが現地に行ったことでネガティブな反応が起きている』と報じられていた。アフリカ諸国や他の諸国のロシアのパートナーたちはこれをよくよく知っている。だから我々は、西側がウクライナを通じて行うハイブリッド戦争とある意味で連動する様々な出来事について、ロシアのマスコミ、現地のマスコミがどのように報じているかについて話し合った」

「ロシアの論評をせめて部分的にでも紹介しよう」とする試みは西側諸国のテレビ報道には見られない。EUで活動していたRT(ロシア・トゥデイ)などのロシアの放送局の事務所が閉鎖されたのは、組織的な「業務ですらなく、戦争」だ。

<https://twitter.com/i/status/1619206166231527425>



●米、ウクライナに長距離兵器供与へ 射程距離 151 キロ＝国防総省(2023年 2 月 3日)

【ワシントン 3日 ロイター】米国防総省は3日、ウクライナに対する新たな21億7500万ドルの軍事支援に「GLSDB(地上発射型小口径爆弾)」と呼ばれる長射程のロケット弾が含まれると明らかにした。

新兵器であるGLSDBの射程距離は、米国がこれまでにウクライナに供与した高機動ロケット砲システム「ハイマース」の約2倍の151キロメートル。ウクライナ東部のロシア軍の全ての供給ルートのほか、ロシアが2014年に「併合」したクリミアの一部も射程の範囲に入る。

米国防総省の発表についてロシア大統領府のペスコフ報道官はロシア通信(RIA)に対し、プーチン大統領が前日にボルゴグラードで行った演説を忘れてはならないと述べた。

プーチン氏は前日の演説で、ドイツが同国製戦車「レオパルト2」をウクライナに供与する決定を非難した上で、核兵器を含むあらゆる兵器を使用する用意があると改めて表明した。



※安齋注:馬鹿なことですねえ。戦争はこのようにして長期化し、エスカレートしていくんでねえ。ウクライナの破壊がますます進み、アメリカの軍事産業が財を成し、欧米には二枚舌、三枚舌の為政者ばかりとなるとロシアに欧米との交渉の余地はなく、否応なく対抗上戦争という手段を激化せざるを得ないでしょう。何時も言うように、この戦争はロシアが勝たざるを得ない戦争で、仮にアメリカーウクライナ連合が勝利してウクライナの軍事化を進め、ウクライナのナチ化が放置されるならば、それこそがこの戦争の原因だった訳だから、対立原因はそのまま温存され、欧米対ロシアの対立模様は将来に続くことになるでしょう。アメリカの身勝手な世界戦略にとどめを刺さなければなりませんね。

●EU、ロシア産上限価格で合意 石油製品、5日発動へ(2023年2月4日)

【ブリュッセル共同】欧州連合(EU)は3日の大使級会合で、ロシアへの制裁として導入するロシア産石油製品の上限価格で合意した。EU議長国スウェーデンが明らかにした。外交筋によると、ディーゼル燃料などの石油製品の上限価格を1バレル=100ドル(約130円)、石油化学製品の基礎原料となるナフサなどの比較的安価な製品は45ドルにそれぞれ設定し、5日に発動する予定だ。

ロシアの主要な収入源を抑え、戦費調達を妨げるのが狙い。ただ、ロシアとの取引を続ける中国やインドが抜け穴になるとの懸念も残っている。

